

BESS10周年 記念式

令和元年6月16日(日)

57名の方の出席をいただき盛況に行われました。



総会での規約改正の決議の様子



ベンガル語のビンゴゲームで盛り上がりました。



みんなでカレーカナッペを準備



ホセイン・アキコさんの通訳により、ビンドウさんの講演が行われました。



会場で民芸品を販売しました。



10年間の活動と成果を報告



スタッフや協力者の皆様と記念撮影

① BESS10年間の活動と成果の報告

教育支援

- ・ B S D P スクールに文具・教科書などを支援し、教育効果を上げる。
- ・ 図書館を設置し、本の増冊を進め、読書する子どもや人を増やす。
- ・ 3棟6教室分の校舎を建て替え、机、いすも取り換え、蛍光灯や扇風機をつけて学習環境を整える。
- ・ 作文コンクール、スポーツコンテストを行い、成果を上げる



フェアトレード、女性自立支援

- ・ 女性自立のために、縫製訓練や民芸品作成訓練をし、自立指導を行う。
- ・ 品質向上した美しい製品ができるように指導する。
- ・ 現地女性が作った民芸品を正当な価格で買上げ、フェアトレード活動をして、現地女性の自立支援につなげる。
- ・ フェアトレード活動での写真展示や説明により、バンングラデシュに関心を持ってもらい、地域の人との交流を図る。



里子支援

日本の里親に支援を受けてハイスクールやカレッジに通う里子達

- ・ 貧困のためハイスクールやカレッジへ行けない子に対し、BESS6年度から里子支援を行い、10年度は39名の里子が通うようになる。



国際理解教育

- ・ 国際理解講座を通して、バンングラデシュや世界の貧困な国について理解してもらい、助け合いの気持ちを深め、学び合う。



広報・宣伝、スタディーツアー

- ・ 広報誌の「BESSだより」や総会などで活動をアピールしたことにより、会員や協力者が増え、関心を持ってもらえるようになる。
- ・ スタディーツアーで、現地視察を行い、交流を深める。
- ・ 「10周年記念誌」を作成し発行する。



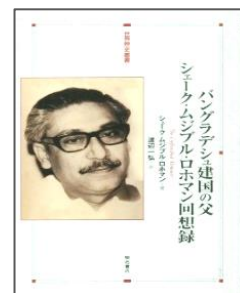
「10周年記念誌」

② ビンドウ氏の講演

「チャンパラスラム街の歴史と私」

1971年、バングラデシュは独立戦争を終え、パキスタンから独立しました。その戦争によって住まいや職を失った多くの人々が地方から首都のダッカに押し寄せました。

当時の大統領ムジブル・ラフマン「愛称：ボンゴボンドウ（ベンガル人の友）」は劣悪な環境に暮らすダッカの人々の生活を向上するために3つの地域に人々を集めて、改善事業（スラムの開発計画）を図ろうとしました。その一つがビンドウ氏の活動するチャンパラスラム街でした。しかし、ボンゴボンドウはその2年後暗殺され、スラムの開発計画は頓挫してしまいました。



「ボンゴボンドウ大統領」

1975年、放置されたチャンパラスラムの状況を支援するため、国際NGO「ワールドビジョン」が生きるために必要な米やダル（カレーのスープ）、じゃがいもなどの食料を支援し、子ども達のために小学校を創り、ミルクやビスケットを配布しました。

1982年、ビンドウ氏（20歳）はワールドビジョンの一員としてこの小学校の校長となり、小学校を中学校へとグレードアップしました。しかし、1987年に国際NGOは撤退してしまいます。ビンドウ氏は新たな支援先を探しました。その1年後、現地のNGO「UST」の支援を得ることができました。

1989年には、そのNGOからのアドバイスを受け、ビンドウ氏（27歳）は自分の団体をつくり、スラムのお母さんたちの縫製訓練の活動を始めました。子どもを学校へ通わせるための家庭の収入を安定させるのが目的でした。訓練を受けたあとミシンや材料を買ったりもできるよう、女性達のグループを作ってグループ貯金をし、そこから低利子でローンができる仕組みを作ることも始めました。私財をつかい、無料で通える小学校も建てました。高校や女の子が通う短大も創設しました。しかし、2002年、そのNGOも撤退してしまいます。活動は低迷し、生徒の数はどんどん減少しました。

2003年には無料で通える小学校や女性グループの活動は停止してしまいました。

2008年、ビンドウ氏（46歳）は日進市にあるAHI（アジア保健研究所）の研修に参加しました。その研修中にBESS代表の森崎の家にホームステイをし、チャンパラスラムの子ども達の教育や無料の小学校再開への熱い思いを伝えました。

2009年、森崎は現地を訪れ、窓もなく電気もなく、雨が降ると浸水してしまう校舎の惨状を見て、ビンドウ氏と一緒にスラムの子ども達への教育支援をする決心をしました。まず初めに先生の給料の一部を補助し、そして「バングラデシュ教育支援の会（BESS）」を立ち上げました。

それから10年（2009～2019年）。校舎3棟を建て、文具や教科書の一部の提供、お母さん達を含む女性の縫製や刺繍訓練、そして買い上げた製品を日本で販売するフェアトレード活動、スタディツアーの実施などビンドウ氏と手を携えて共に歩んできました。

そして2015年里子支援制度を立ち上げ、現在39名の里子が通い、成果をあげています。

今回ビンドウ氏が歩いてこられた足跡やチャンパラスラムの歴史を知ることにより、私たちが支援しているチャンパラスラム街がより身近に感じられると共にこの活動の意義を改めて考えることができました。



「昔のチャンパラスラム」



「今のチャンパラスラム」

「10周年記念式」 アンケート より

1 BESS の活動について

- ・いいスタッフに恵まれて活動できていると思います。 継続は力。
- ・BESS が一つになって助け合い、今日まで走ってこられたと思います。 10年先が楽しみ。
- ・地道に着実に続けてこられて、その確かさを思います。代表とビンドウさんとのコンビで、いろいろある中でも信頼し合い、やってこられ、その2人を支える BESS の皆様の力、思いがなしたことと思います。 ・記念誌もよくできていて、よい記録になったと思います。
- ・フェアトレードの活動などご苦労様。 ・里子たちの将来の夢がかなうことを祈念します。
- ・よくここまで大きな働きを続けられ感謝です。今後も協力したいと思っています。
- ・文具や教科書などを提供する直接的な教育支援だけでなく、女性が自立できるように裁縫訓練の支援をするなどバングラデシュの人々の生活に大きくかかわっていることがわかりました。
- ・日本や現地企業と手を組んで、働き口を確保していく未来を築いていければよいと思いました。
- ・今日ここに来られたことに感謝です。
- ・現地の子どもや女性たちのために大切な活動をされていることがわかりました。BESS から支援を受けた子供たちがリーダーとなって、自立に向けてビンドウさんと共にバングラデシュを引っ張ってくださることを願っています。
- ・ビンゴゲームでとても楽しく過ごしました。豪華景品もありがとうございました。少し長かったかな。
- ・たくさんの方の出席で素晴らしい会になりました。
- ・市民があまり知らないのではないだろうか？
- ・バングラデシュの資源、強みを生かせるには・・・ と思いました。



2 ビンドウ氏の講演について

- ・歴史がわかってよかった。 ・通訳の方がとても上手な日本語で聞きやすかった。
- ・ビンドウさんのスラムの人々への変わらぬ思いを感じました。 ・熱い心を持った先生で、応援したい気持ちが強くなりました。 ・努力が実ることがわかりよかったです。
- ・40年前に知った状況と大きな変化がなく、今後も支援が必要と感じました。
- ・バングラデシュの生活状況がよくわかりました。今後も続けてくださることを願っています。
- ・いかに地域をよくしていこうと思っておられるかがよく伝わってきました。
- ・もう少し、スラムや子供、家庭の現状をお話いただくとよかったです。
- ・勉強したくてもできない子供たちがたくさんいて、里子支援を受けていても結婚や貧困により、教育支援を受けることができなくなってしまうこともあると知って、今教育を受けることができている私たちにできることはないか考えさせられました。
- ・バングラもできるだけ援助したいと思います。
- ・バングラデシュについてもっと知りたくなりました。
- ・現地の写真を交えて生の声を聞くことができよかったです。
- ・貧しい子供たちの支援を具体的にして、広い視野で世界のために頑張られていて素晴らしいと思いました。



国際理解講座

尾北高校

6月19日(水)、尾北高校の国際科2年生の希望者に向けてスラムの現状紹介やバングラデシュの歴史を織り交ぜて「バングラデシュ国際理解講座」を行いました。



古知野中学校

6月25日(火)、古知野中学校の2年生全員に向けて、ワークショップやクイズも交えて「バングラデシュ国際理解講座」を行いました。



生徒の皆さんの感想や意見 (アンケートより)

- ・識字率が低く、女性だけでなく、子どもも働いている。
- ・国を良くしたいと立ち上がったボンゴボンドウ大統領が暗殺されたのは残念だった。
- ・日常生活の様子をもっと知りたいと思った。
- ・義務教育が5年と短く、中・高等学校へ行けない子が多い。
- ・5歳未満児の死亡数が日本では1000人当たり3人であるが、バングラデシュでは119人と、とても多い。
- ・男女が別々のクラスで勉強している。
- ・今まで当たり前かと思っていたことが当たり前でないこと知り、今ある日常に感謝したい。
- ・貧しい国の人々のために今の自分に何ができるかを考えさせられる講義であった
- ・スラムの状況をもっと知って、改善するために私たち高校生に何かできることはないか知りたい。
- ・彼らのために自分ができる小さなことから始めていこう。
- ・現地の里子の手紙の和訳や里親さんの手紙の英訳をしたい。
- ・フェアトレードの製品を買って協力したい。

- ・文化が全然違う。包丁の形が面白かった。
- ・民族衣装のサリーは綺麗で華やかでかわいい。
- ・サリーは思ったより簡単に着ることができ、動きやすい。
- ・思ったより大勢の人が字が書けない、読めない。
- ・バングラデシュでは小学校最終学年までで在学するのは約60%であることを知った。
- ・働きながら、学校に行っている子が多い。
- ・5歳未満児の死亡数が1000人当たり119人で日本の40倍もあり、びっくりした。
- ・女性が家庭内暴力を受けていることを知り、女性として、強く心に残った。
- ・日本がどれだけ幸せで恵まれた国かがよく分かった。
- ・募金や寄付についてもっと知りたい。
- ・文具を寄付したい。
- ・貧しい国の人々のことを考え、もったいないことをしないようにしたい。
- ・日本は幸せでいい環境にあるので、一生懸命勉強していこうと思う。
- ・いつかバングラデシュに行ってみよう。

BESS10年度 (2019年度) 事業計画

月	内 容	備 考
1月	18日(金) フェアトレード会監査	BESS事務所
	26日(土) スタッフ会・BESS会監査 「BESSだより」15号 作成	BESS事務所 BESS事務所 BESS事務所
2月	9日(土) アジア太平洋フェスティバル F	北名古屋市
	10日(土) 「BESSだより」15号 発行 11日(月) 江南市女性連絡協議会 講演会 男女共生社会を目指す音楽の力 F 名古屋観光ホテル F (マシワさん・JBCS 協力)	江南文化会館 名古屋観光 ホテル
3月	1日(金) 「BESS10年誌」作成	BESS事務所
4月	6・7日(土・日) 各務原さくらまつり F	各務原公園
	7日(日) 丸山祭 F 23・24・25・26・27・28・30日 (火・水・木・金・土・日・火) 藤まつり F	しみん亭 曼羅寺

5月	1・2・4・5日(水・木・土・日) 藤まつり F	曼羅寺 れとびあ
6月	26日(日) 江南市子どもフェスティバル F	れとびあ
6月	16日(日) BESS総会・セミナー F 10周年記念式 「BESS10年誌」発行	江南文化会館
7月	14日(日) 江南市女性連絡協議会 映画会 F 25日(木) JBCS総会参加	江南文化会館 名古屋国際 センター BESS事務所
8月	18日(日) 江南市国際交流フェスティバル F 25日(日) 丸山プロイデまつり F	れとびあ 丸山プロイデ
10月	10日(木) 「BESSだより」16号 発行 12日(土) ワールドカップマーケット F 14日(月) AHI オープンハウス F	豊田市 日進市
11月	3日(日) ふじの木園まつり F 9・10日(土・日) 江南市民祭り F 17日(日) 江南市消費生活展 F	ふじの木園 れとびあ 江南文化会館

中 日 新 聞
2019年(令和元年)6月20日(木曜日)
尾 張 版 12



江南に本部「BESS」「自立支える」意気込み新た

江南市に本部を置く「バンングラデシュ教育支援の会(BESS)」が、設立から十周年を迎える。女性の自立支援や現地の子どもへの進学を応援したりしてきた会員たちは、「これまでられたのは皆さんの支えのおかげ。十年でやれることが増えてきた」と手応えを感じ、活動への意気込みを新たにしている。(鈴木里奈)

BESSは、発展途上国の原料や商品を適正な価格で購入する「フェアトレード」で得た布商品を生地のペントで販売。その売り上げで現地の小学生らに文具を買って送っているほか、女性が民芸品を作ることが

江南市に本部を置く「バンングラデシュ教育支援の会(BESS)」が、設立から十周年を迎える。女性の自立支援や現地の子どもへの進学を応援したりしてきた会員たちは、「これまでられたのは皆さんの支えのおかげ。十年でやれることが増えてきた」と手応えを感じ、活動への意気込みを新たにしている。(鈴木里奈)

BESSは、発展途上国の原料や商品を適正な価格で購入する「フェアトレード」で得た布商品を生地のペントで販売。その売り上げで現地の小学生らに文具を買って送っているほか、女性が民芸品を作ることが

ストラム街の現状について講演した。子どもたちが週に二日働いて学費を稼いでいることや、ストラムでは何人も結婚したり、薬物中毒になる男性が多いことを紹介し、「女性の自立が大切」と強調した。また、これまでに六百五十人の女性が支援を受け、大半が縫製工場に働いていることも伝え、会の活動に感謝した。

森崎さんは「里子の子もたちが、現地での自立を支えるリーダーとして育ってほしい」と話していた。

バンングラデシュ支援10年 手応え

できるうちに縫製の技術を身に付けてもらおうと技術訓練の支援が続いている。さらに、会員が「母親」となり、子どもの進学を金銭面で後押しする制度を二〇一五年から実施。これまでに三十九人が、中学や高校に進学した。昨年開いたベトナム語の作文コンクールでは、最優秀者になったことが母親への感謝が伝わったという。

その他、小学校の窓の修復や図書館の建設なども取り組んできた。会の発足は、森崎芳子代表(三〇)同市宮後町Ⅱが〇九年に現地の学校を訪れ、劣悪な教育環境を知り、支援を決意したことがきっかけ。草の根で活動を続け、現在、会員数は百三十人を超えるまでに成長した。

今月十六日には江南市市民文化会館で活動報告会があった。支援先の小学校の校長、ナジバル・シラマン・ストラム氏の現状について講演した。子どもたちが週に二日働いて学費を稼いでいることや、ストラムでは何人も結婚したり、薬物中毒になる男性が多いことを紹介し、「女性の自立が大切」と強調した。また、これまでに六百五十人の女性が支援を受け、大半が縫製工場に働いていることも伝え、会の活動に感謝した。

森崎さんは「里子の子もたちが、現地での自立を支えるリーダーとして育ってほしい」と話していた。



バンングラデシュ中部のマンヤカンで、子どもたちの前で鍵盤楽器を演奏するBESSのメンバー。バンングラデシュの部で、学生を指導するBESSのメンバー。いざいBESS提供

6月20日の中日新聞に掲載されました。

【令和元年】

賛助会費 (年) 1,000 円

里子支援費 (月) 1,000 円

振り込みの場合

郵便局

口座番号 0860-8-190488

加入者名 BESS

*** 来年度より賛助会費が2000円になります。よろしくお願い致します。**

(6月16日に行われました総会で承認されました。)

問合せ先 **バンングラデシュ教育支援の会 (BESS) 事務局**
 〒483-8044 愛知県江南市宮後町中町 79
 TEL 0587-54-4303 090-9225-9729
 メール m-hanzu@msd.biglobe.ne.jp
 ホームページ <http://www.7b.biglobe.ne.jp/bess/>

ビンドウさん 滞在記

令和元年 6月6日(木)～
6月28日(金)



馬場さん宅で歓迎会



文化財巡り（犬山城、犬山城下町、永昌寺、音楽寺など）



藤里小学校訪問：子どもの歌声や給食体験、教師達の
てきぱきした指導を見て感動



江南市国際交流協会を訪問
日本の着物や舞踊も体験



通訳のアキ子さんと打ち合わせ



10周年記念式



松浦家にホームステイ。リトルワ
ールドに連れて行ってもらう。



大池家にホームステイ。淡水魚水族館や鵜飼
に連れて行ってもらう。



尾北高校で Bangladesh 講座



古知野中学校 2 年生に Bangladesh 講座



初めて日本に来て研修を受けたとき（平成 20 年）の「アジア保健研修所（AHI）」を訪問



英語サークル「フレンズ」と交流



江南市長を表敬訪問する。

ビンドウさん
滞在記、こぼれ話

- ・きゅうり、大根、トマトなどの生野菜に何もつけずにパクパク食べていました。
- ・動物が怖いビンドウさんはアシカショーで近づいてきたアシカに恐れおののき、松浦家の室内犬ヨークシャテリアから逃げ回っていました。
- ・日本は蚊が多いと驚いていました。
- ・リトルワールドでは 1 日で世界旅行ができた大喜びでした。



10 周年の反省会